

平成31年度全国学力・学習状況調査に関わる系統性を考えた今後の取り組みについて

資料1

	国語科	算数科	生活・学習
重点課題	<p>①「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において、学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている児童が約60%。(通過率46.2%, 38.5%)</p> <p>②「書くこと」の領域において、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができている児童が約60%。(通過率38.5%)</p>	<p>①わり算の式の意味を理解していない児童が約60% (通過率38.5)</p> <p>②被除数と除数にかけの数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できていない児童が約25% (通過率76.9)</p> <p>③マスの数(辺の長さ)に着目していない児童が約40% (通過率61.5)</p>	<p>①自己肯定感を持っている児童は77%だが、自信を持って「自分に良いところがある。」と回答している児童は、23%である。</p> <p>②難しいことにも、失敗を恐れなくてチャレンジしようとする児童が60%である。周囲からの自分の評価を気にして(失敗することを恐れて)しまう傾向にある。</p> <p>③(国語科に関して)国語科の学習が将来役立つと思うと回答した児童が46%である。生活場面で国語科の学習を役立てた経験が乏しいと考えられる。</p> <p>④(算数科に関して)算数科の学習で新しい問題に出会ったときに解いてみたいと回答した児童が68.5%である。既習事項を生かせば、解決できるという見通しが持てないのが原因ではないかと考える。</p> <p>⑤(算数科に関して)問題の解き方が分からなくても諦めず、いろいろな方法でチャレンジすると回答した児童が61.6%である。これまでの経験で1つの解決方法で満足してしまっていることが要因として考えられる。</p>
1年	<p>①2つの事を比べて、自分の意見を正しく述べたり書いたりする。</p> <p>②同音異義語の漢字を正しく書き、音・訓読みを徹底する。</p> <p>③文の構成の順序「はじめ」「なか」「おわり」を意識させて、宿題で日記を書かせる。</p> <p>④色々な文章に慣れるために、音読とモジュールを使ったテンポのある読書活動をする。</p>	<p>①色々な形の色板を敷き詰めて回転させたり、移動させたりして色々な形をつくる。また、積み木で立体の形を作り立体図形の特徴に気付かせる。</p> <p>②式を言葉で説明させ、たしざんやひきざんの立式を正しくできるようにする。</p> <p>③線を真っ直ぐ引くことを意識させ、色々な形を作図する。</p> <p>④マスを使って描いた図をノートのマスを使って正しく視写させる。</p> <p>⑤文章問題では、分かっていることに直線、聞いていることに波線、たしざんやひきざんの言葉に○をさせ、生活に関わることや身近なものを数えて、絵や図で表せることを読み取らせる。</p>	<p>①あらゆる教科の中で、挑戦しやり遂げる機会を設定する。</p> <p>②「いきいきタイム」で自分の考えを結論先行で話し、分かりやすく伝える機会を増やす。</p> <p>③授業の振り返りを行い、自分でできたことや他者から学んだことを評価し、自主学習に取り入れてみるように声をかける。</p> <p>④生活の中での様々な気付きや、自然現象の変化を比較させる内容を朝の会で聞き、気付きの質を高める。</p> <p>⑤帰りの会で「ほめほめタイム」を設け、お互いの良いところを認め合う。</p>
2年	<p>①新出漢字の学習の際に、同音異義語の意味の違いを丁寧に指導する。(「書く」と「描く」などどちらかが未習でも)</p> <p>②キーワードを入れるという条件に沿って文章を書く練習をする。</p>	<p>①言葉の式に当てはめて考えさせ、式の意味を理解させる。</p> <p>②九九を完璧に覚えさせ、既習後も反復練習を継続させる。</p> <p>③図形の模様作りなどの算数的活動を取り入れる。</p>	<p>①日常的に児童同士がお互いのよいところをつたえ合う場を設定する。</p> <p>②失敗したことではなく、挑戦したことを評価する声かけをする。その後、失敗した原因を振り返り、次はどうすればよいのか考えさせる。</p> <p>③他教科の発表場面や考えを書く場面においても、国語の既習事項が活用できるという意識が持てるような声かけをする。(「この前習った〈メモの取り方〉が使えるね」など)</p> <p>④授業の中で見通しをたくさん出させる時間を設定し、一人ひとりが自分なりの見通しを持つことができるように意識づける。</p> <p>⑤自力解決の際、問題が早く解けた児童には他の解き方を考えさせる。支援が必要な児童には、具体的なヒントを示したり、友だちの考え方で問題を解かせたりする。</p>
3年	<p>①新出漢字を取り扱う際、筆順や止め・はね・はらいに気をつけて正しく漢字を書かせるとともに、書き取り問題を繰り返し練習し、漢字や漢字の熟語の定着を図る。また、新出漢字を学習するたびに、間違えやすい同音異義語について触れるようにし、漢字と、その漢字がもつ意味について触れ、適切に漢字を用いることができるよう指導する。</p> <p>②条件のある問題に取り組みさせるようにする。条件が2つまたは3つある場合には、そのすべての条件をおさえたうえで、文章を記述するようにさせる。問題の中に条件が出てきた時には、条件を見逃さないように、○をしり線を引いたりして、必ず漏れないように工夫するよう指導する。また、字数制限のある文章を書く経験を積ませる。</p>	<p>①かけ算のきまりなど、未定着の事項は、帯タイム等を活用して、定着を図っていく。文章問題においては、何が(一つ分)で何が(いくつ分)なのかをきちんとおさえるために、問題文に必ず線を引くようにさせる。</p> <p>②わり算では、(一つ分)と(いくつ分)を意識させて、等分除と包含除の区別をするようにさせる。</p> <p>③平面上での位置を表す機会を設定する。そのために、マス目を数えたり位置を表したりして解く問題に取り組みさせる。</p>	<p>①学級活動等を通して、クラスの中で、個人の良い所を評価する場面を作るようにし、失敗や間違いを互いに肯定的に認め合ったり励まし合ったりできるように学級集団作りに努めていく。</p> <p>②日々の取組を通して、一人一人が自分に自信をもち、様々な活動に粘り強くチャレンジする精神を育み、チャレンジしてみようとする児童を育てていく。</p> <p>③国語で学習したことを、児童に想起させるような発問を意図的に投げかけ、学習したことが活きる実感をもたせるよう発問を工夫する。</p> <p>④新しい問題に出会ったとき、これまで学習したやり方が使えないか想起させるような発問を意図的に投げかけいく。</p> <p>⑤問題の解き方が分からず諦めたり無回答にするのではなく、自分の知っているやり方や知識を使って、なんとかして解いてみる経験や、一つの方法だけではなく、色々な解決方法を考える機会を与える。</p>
4年	<p>①漢字の持つ意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字は、日常生活で必ず使う意識を持たせる。</p> <p>同音異義の漢字を集めたり、同じ送り仮名が付く漢字を集めたり、類義語や反意語の熟語を整理させたりして、自主学習の内容を具体的にアドバイスする。また、意味調べをする際にも、意味を多数持つ語句から、文意に照らし合わせて適切な漢字を選択する指導を充実させる。</p> <p>平仮名だけの文を漢字に直させる学習も取り入れる。</p> <p>②形式段落を順不同にした6~10の形式段落からなる文章を接続語や内容から正しい配列に並び換える作業を取り入れる。</p> <p>新聞の投稿欄に掲載された記事を読ませ、その感想を条件付きで書かせる学習を取り入れる。</p>	<p>①文章題を解く時に、自分の解き方の説明をペアでする機会を設定し、式の説明及び答えが何を表すかを明確にするように徹底して指導する。また、説明の際に図を活用させることも意識付け、求めることが図のどの部分を示しているかを明らかにするように指導する。</p> <p>②四則計算のきまりを教室掲示し、わり算のきまりについては、繰り返し授業中に確認する。今回の問題を4年生児童にも解かせ、解説を丁寧にを行う。</p> <p>③合同な四角形(台形、平行四辺形、ひし形)を2つ組み合わせるとどんな図形ができるかを確認する。その際、誤答が多かったホームベース型の辺の長さを変えたり、角度を変えたりして、正確に観察させる学習を取り入れる。</p>	<p>①お互いのよさを伝え合う機会を設定する。誕生日集会の応援メッセージでは、友だちの良いところを学級全体で話し合う機会を設定する。</p> <p>②失敗をそのままにしないで、必ず原因や理由を振り返り、今後にどういかにかを考えさせる営みを定着させる。チャレンジできたことを増やすための生活振り返りカードの項目を設け、1週間ごとに振り返る機会を設定する。</p> <p>③国語科で学んだことを係活動や学級活動に生かす場면을意図的に設定する。総合的な学習を行う際に、児童に意識付ける。</p> <p>④算数科の授業では、既習事項を生かして新しい問題を解いているという場面を捉え、児童に伝えたり、既習事項を教室内に設置し、児童が授業中に自由に活用できるように環境整備を行う。</p> <p>⑤1つの解き方が見つければ、他の方法を考えさせたり、友だちの解き方で評価問題を解かせたりする。多様な考えが生まれる問題場面を設定する。</p>
5年	<p>①漢字辞典を積極的に活用させ、同音異義語の意味の違いを捉えさせる。</p> <p>②「和の文化を受けつぐ」の学習を通して、調べて説明するという目的を意識して、簡単なメモをとる、必要な情報を視覚的に図などに整理し、内容・構成を適切に押さえられるように指導する。</p>	<p>①「比例」の学習において、伴って変わる二つの数量の値を具体物を使いながら表に表し、二量間のきまりを見つけやすいようにする。また、できた式の意味をグループで説明し合う機会を積極的に取り入れる。</p> <p>②問題場面を児童同士で説明させ合う中で、立式の意味を考えさせる。</p> <p>③図形を切ったり、合わせたり、埋めて引いたりする算数的活動を取り入れ、学習を深める。</p>	<p>①帰りの会を活用して、よい所見つけを積極的に挙げる。</p> <p>②挑戦した活動において、価値付けや肯定的評価を行い、成功体験を増やす。</p> <p>③総合的な学習の時間など、各教科と関連させて身に付けた力を表現できる活動を設定する。</p> <p>④一つの方法だけでなく、他の考えを見付けさせる。</p> <p>⑤知識を活用できる生活に根ざした応用問題に取り組みさせる。</p>
6年	<p>①新出漢字の学習の際に同音異義語の意味の違いを丁寧に指導し、帯タイムなどを活用して練習させる。</p> <p>②・説明文の文の構成を図に表して整理したり、接続詞の意味を理解させて段落相互の関係をつかませたりする。</p> <p>・帯タイムなどを活用して、条件に沿って文を書く練習をさせる。</p>	<p>①式の意味を説明する機会を設定する。また、計算して出てきた答えは何かを説明させる。</p> <p>②加減・乗除のきまりについて確認する。また、出題された問題形式の数値を変えて類題を作成し、再度実施する。</p> <p>③二つの合同な平行四辺形・台形・三角形をずらしたり、回したり裏返したりする算数的活動を取り入れ、学習を深める。図形の構成要素である角や辺の長さを注意深く吟味し、合同であるかどうかを判別させる学習や合同な図形を作図する学習を取り入れる。</p>	<p>①機に応じて、個に対しての具体的な肯定的評価をしていく。経験を通して達成感・充実感を感じさせる。</p> <p>②あらゆる教育活動の中で、安心感・存在感を持たせる場面を仕組む。</p> <p>③他教科・多領域との横断的な学習や、国語科における大単元構成を仕組んだ学習展開を図る。さまざまな身近なものにつなげていけるようにさせる。</p> <p>④既習を活かした学び方を身に付ける。</p> <p>次につながる「わかった」「できた」という達成感を持たせたり、「もっと知りたい」という探求心を持たせたりする授業展開を図る。</p> <p>⑤支援が必要な児童には、具体的なヒントを示し、自信を持って取り組めるようにする。また、一つの方法を見つけた児童には、他に方法はないか考えさせ、多様な考えを見付けさせる時間を保証する。</p>
特別支援 自閉症/情緒	<p>①間違えやすい漢字の画の色を変えて正しく漢字を書けるようにしたり、問題数を少なくして意欲的に漢字を覚えたりすることができるようにする。同じ音の漢字の意味の違いを絵カードなどで覚えさせる。</p> <p>②接続詞の意味を理解させ、短文の中の文章相互の関係をつかませる。</p>	<p>①立式した時にどうしてその式になるのか、問題に着目させて説明させる。</p> <p>②加減・乗除のきまりについて表示し、どんな時に使ったらよいか示して、計算する時に使えるようにさせる。</p> <p>③図形の操作活動を十分に行い、辺の長さや角の大きさに着目できるようにする。</p>	<p>①具体的な場面で、児童の良さを学級内で知らせる。どの児童も、1日1回は認める場面を作る。</p> <p>②生活場面で学習したことが使えることを意識して伝える。</p> <p>③ヒントカードを利用して自力解決できるようにしたり、教科書の解き方をもとにどのように考えたのか説明させたりする。</p>